



まちづくり委員会広報
千僧供町

シンボルマーク と 標 語

- ・かよい合う 心でつなぐ まちづくり
- ・いにしえの 千僧の村 皆のまち

編輯發行

523-0016

近江八幡市千僧供町

會議所内

まちづくり委員会

TEL(0748)37-1234

広報部担当

小川 博久

No. 006

「まちづくり委員会の
四事業の実現に向けて」

自治会長 小西末男

残暑厳しき折、皆さんにおかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。

平成一八年度自治会もスタ
トして四ヶ月を経過し、私も様
々な行事に携わり、その都度認
識を新たにしている所です。
当町のまちづくり委員会も発
足して四年目を迎え、今日まで
の活動を通して経験された事、
学習された事を生かして、創刊
号の委員長の挨拶にも述べられ
ている、まちづくり委員会の四
事業 ①美しい景観と快適な環
境づくり ②文化と歴史を学
び、後世に継承する ③住民の
安らぎとコミュニティ等を考え
る ④安心・安全に暮らせる町
の実現に向けて着実に前進する
年にして頂きたいと思えます。
まちづくり委員会に携わり活
動しておられる皆さん方は、こ
れからの千僧供町をリードして
行かれる方々だと思えますの
で、今後より一層の研鑽を積ん
で住民の皆さんの期待に応え、
「住みよいまち、誇れるまち」
から「住みたいまち、誇れるま
ち」へと目標を大きく掲げ活動
を広げて頂きたいと思えます。
その為には、まちづくり委員会
の活動の内容、進捗状況、結果
など住民の皆さんにタイムリ



（きれいに修復された墓碑）

に報告し理解を得ると共に、皆さんの意見も随時幅広く聞き、皆取捨選択してまちづくりに反映さす事。また、他町のまちづくり委員会との交流、視察、研修など積極的に行い視野を広げる事が肝要かと思えます。

現在、まちづくり委員会を中心に佳連房古墳、首洗い池の整備を行い、町内の案内板の作成を進めております。そして「近江八幡市千僧供地域歴史資料館」通称「資料館」の活用構想として、「まちの手づくり歴史資料館」（仮称）設立の準備委員会を発足し、市の方に働きかけを行っております。これらの案件に付きましてもまちづくり



（移動して新しく
なった看板）



委員会の協力が必要
となっており、
住民の皆様方には、
まちづくり委員会の
活動に付きましてご
理解、ご協力の程、
今後とも宜しくお願
い申し上げます。

マークの意味

まちのシンボル供養塚古墳をベースに、中央に椿の花を配したこのマークは、『完璧な魅力と誇り、つつしみ深くて気取らない優美さ』の意味をもち、魅力ある町にとの思いを表現しています。



去る七月一六日（日）に組長さんや近くの方々、そしてま
ちづくり委員で天候の心配され
る中、びしょ濡れになって皆さ
んのすばらしいパワーで一日で
完成して頂きました。大変お疲
れになったことと思います。あ
りがとうございました。大変す
ばらしく変身いたしました。安
楽寺様の方にもお礼かたがたお
手紙を送っていただきました。
今回の修復は、昨年の住連坊
倒壊の残金と、更なる安楽寺様
からのご寄付によるもので行
うことができました。改めて御
礼申し上げます。今後は、この
持管理に自治会、まちづくり委
員会、六枚橋町内会などで進め
ていくことになるのではないで
しょうか。皆様の暖かいご支援
をお願い致します。ここに改修
時の様子を写真で紹介して喜び
たいと思います。重ねて皆さま
がたのご協力に感謝申し上げます。
今後の大きな力になっていく
ものと確信致します。

整備完了です
住連坊 首洗い池」





整備後内側から



整備前の首洗い池



整備後の首洗い池

住蓮坊首洗い池

住蓮坊は、鎌倉時代前期の僧侶。法然房深空の弟子で美声であつたという。専修念仏の弘通につとめ、安楽房とともに所々で別時念仏会に六時礼讃を行い、僧侶の帰依を受け、貴賤を問わず教を伝えた。

当時、都では法然上人の念仏教団が既成の教団からうとまわつても力を得つた。しかし、南部北領の念仏者弾圧は執拗で、建永元年(二〇六年)二月には、興福寺によつて法然上人、安楽らとともに、罪科に処せられるよう訴えられている。同年十二月後鳥羽上皇が熊野臨幸の間、住蓮は、安楽と東山鹿ヶ谷で六時礼讃を唱えた。これに帰依渴望する人多く、それがきっかけで後鳥羽上皇の二女官(松虫姫、鈴虫姫)が帰依した。これを知った後鳥羽上皇の怒りに触れ、法然上人門下への弾圧も強まり、住蓮は翌、承元元年(二〇七年)近江馬淵の荘の池のほとりて処刑された。その首を洗つたといわれる池が、この「首洗い池」である。

(上・松虫姫 下・鈴虫姫)

二〇〇六年六月十一日 千僧供町まちづくり委員会
この説明看板や池周辺の整備などは、住蓮坊・安楽房の八百周年忌を機会に京都・鹿ヶ谷・住蓮山安楽寺様より寄せられた浄財により整備いたしました。

KJ法 「生活改善と祭り」
本質追究まで来ました。その結果を報告します。文書にまとめて。自治会に提言したいと思ひます。

R3.5「今後も続けられる祭りをめざす(本質)」

- 近年は、総代や社守が交替制になっているが、昔は権力者だけが総代や社守をしていたので、マニュアルが必要になつたのではなからうか。
- 新参入の人達が祭りなどに参加できないのは、村付制度が障害になっているからではなからうか。
- この祭りが続いているのは、村付制度があるからではなからうか。
- 社守・村付制度・祭りの改善は、決められた協議の場が必要ではなからうか。
- 時代の変化でさまざまな理由が出来て、祭りに参加したくないのではなからうか。
- 農業中心から、仕事中心に時代が変わつたので、祭りだからといって休めなくなつてきているのではなからうか。
- ゴールデンウィークの有効利用ができないのは、4月末から5月4日までの長期祭りになっているからではなからうか。

R3.5「皆が守れる生活改善をめざす(本質)」

- 申し合わせ事項の説明が不十分で町民に理解されず意思統一がされていないのではなからうか。
- 申し合わせ事項の見直しをする機会がなかったのではなからうか。
- 町民みんなの意見を聞き入れて決められていないため守らなければならない意識が低いのではなからうか。
- 過去の考え方より新しい今の考えの人が、一般的になっているのではなからうか。
- 申し合わせ事項の文章表現があいまいなため色々な解釈がなされているのではなからうか。
- 申し合わせ自体に拘束力がなく、守らなければならないという意識が低いのではなからうか。
- 個々の付き合いの程度が一定ではないので、申し合せ事項を守る事によって、付き合いが希薄になると考え、見栄の張り合いという部分もあり、自分の立場が悪く思われる事を恐れて、割り切った付き合いができないのではなからうか。



←市の協力者深尾さん

←祭 KJ

↓生活改善





動（チャペル通り）の植栽②
区内空き地の植栽③公園の植樹
④道路の清掃⑤研修会⑥防犯防
災活動⑦バザーなどをやってお
られます。そこで、今回の研修
会では、①千僧供まちづくりの委
員会発足の経緯②まちづくりの
考え方と取り組み方、自治会と
の位置づけ③事業内容④問題点
と苦勞な点などについて交換研
修を行いました。そのあと、町
内と蓮坊古墳、六枚橋住宅案
内図を觀察してお別れいたしま
した。°。お互いの活躍を祈りな
ら・・・。

[illegible]

新千僧供探訪

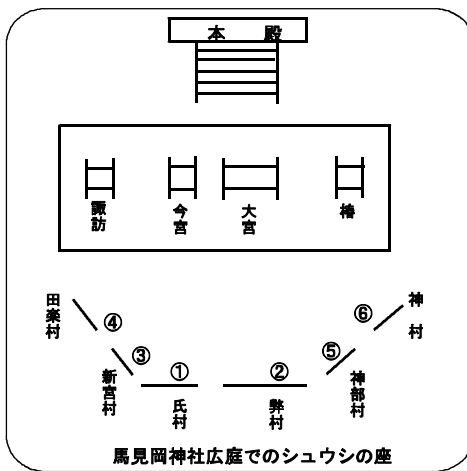
湖国に春を呼ぶ「祭り」と近江八幡を代表する火の祭り「左義長」そして、「松明祭り」・・・今回は春の祭礼から「馬見岡神社の御供割」を掲載します。

これらは、教育委員会「近江八幡の火祭り行事」を参考資料として作成いたしました。

②御供割(ごくわり) 馬見岡神社での

五月一日一七時過ぎ、椿神社・諏訪神社の神輿が安置され、各外座の長老(オトナ)達が、姿で集まっています。拝殿には、大宮社守、椿神社守が白の袴姿で着座し、諏訪神社守、神職、巫女なども並ぶ。神輿に灯明を上げたり、御供を供えたりするの、氏子総代、給仕は、大宮神社の関係の青年である。対して、各長老(オトナ)達は、拝殿前に弧を描くように敷かれ、た菰の上に座する。各座の配列は図の通りで、馬淵郷の祭礼でもよく紹介されるシュウシの場面である。御供割、巫女の神楽(オトナ)が前に進みでて村長

御供割(そんぎょ)して、これより御供割りを行いシュウシをさせてもらうべきむね一同に挨拶する。行司村としての役目である。これを受けて御供がまず拝殿の神輿、社守などに分かれたれ、次に氏村そして各村へ分配されてゆく(図の下の数が御供を配る順番)。拝殿から各村へ御供を配る給仕は、裸足で行き来する。御供は、黒豆を混ぜた白蒸で、真菰の縄で巻いて形を整えたもので、馬淵郷の祭礼では、すべてこの御供が供えられていた。続いてはお神酒も配られるが、かつては、御供のみであった。が、がて、神職と巫女が退席し、鳥居の所で冷泉寺住職とすれ違い、無言の挨拶を交わす。神職に代わって、冷泉寺住職が神輿に奉納、この読誦が終わると御供割りの神事は終了し、各村の長老(オトナ)達は引き上げ(近江八幡の火祭り行事参照)



馬見岡神社での御供割り



馬見岡神社でのシュウシ



椿神社での大松明



千僧供敬神会大太鼓



供養塚古墳発掘風景



住蓮坊古墳発掘写真



供養塚出土の埴輪



岩塚石室

ニュース

資料館オープン
に向け準備着々

建設から二十年が経過し、これと資料館の活用がされず、来たより去る五月十六日、その計画画について市に要望いたしたところ、市長には大変な関心を示され、即答で前向きな回答をいただきました。早速担当者をつけていただき、早急で体制を整えていただくなど、予算獲得の為に、六月中に具体的な構想、計画書の提出が求められるなど、慌ただしい中、町内の皆さま方にお知らせと理解をいただくために苦慮しながら、幸いに待望や賛同の声を多くいただき、スムーズに計画に着手する事が出来ました。自治会では、仮称「まちの手作り歴史資料館」整備計画協議会(構成自治会相談役、顧問、土地・農事両組合、老人会、まちづくり委員会、各役員)を立ち上げ、構想や計画を練り、また行政の担当者とも協議を重ね、すでに計画書を提出し、後には九月の予算獲得の日を待つのみとなりました。また、今回このような計画が進められるきっかけになったのは、「たねや」さんから旧店舗のショーケースがいただけたからに他なりません。このように皆々さま方の熱意とご好意により

築かれようとしている新しい歴史資料館が、千僧供の歴史と文化の発信の拠点として機能し、また交流と憩いの場として活用されることが望まれます。私たちまちづくり委員会でも、地元でこのような施設の完成が実現できるように自治会と協力しながら取り組んでいきたいと考えています。

千僧供町まちづくり
フォーラムに参加決定

九月三日(日)に行われる恒例の八朔行事奉納相撲のあと、会議所で行います。HOTOテレビさんに見たものの放送を編集していただき、また、ビデオで見ていただくながら「まちづくり委員会」の足あと・現在の取り組み・今後の活動計画などについて取り組みます。皆さんに興味をもつて集まってもらえるようにがんばろうと考えています。時間は午後三時から予定です。ふるってご参加下さい。

編集後記

委員会広報にも新しく若いチカラも加わり、第六号の発刊が出来ました。より身のあるものにしていきたいと思っています。声援をよろしく願います。